

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1053 号	氏 名	百 武 愛 子
論文審査担当者	主 査 福嶋 義光 副 査 駒津 光久・小池 健一		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>うつ病は世界的にも大変大きな健康課題のひとつであるが、思春期における大うつ病の時点有病率は3~6%であり、20%は18歳までにうつ病を経験することが報告されている。また、うつ病を経験した20%のうち、31.7%が5年以内に再度うつ病を経験することが報告されている。さらに、海外のレビューによると、女子の25%、男子の15%が抑うつ症状を有するとされている。抑うつは大うつ病のリスクファクターであり、抑うつ症状が有る者はない者と比し、神経症など健康上の問題、成績不振、違法薬物の使用など行動的な問題、将来的な雇用の問題を抱えることが報告されており、早期発見と適切なケアが重要である。</p> <p>既存研究によると、抑うつに影響を与える因子は、子ども自身の要因、保護者の要因に大別される。子どもの要因ではストレス、生活習慣との関連、保護者の要因では、保護者の抑うつ、収入、職業、教育歴を代表とする社会経済的地位が関連する。しかしながら、子どもの要因及び保護者の要因を包括的に検討した調査はない。そこで百武は、松本市の中学校1校の生徒477名とその保護者を対象に自記式アンケート調査を実施し、中学生において、ストレスおよび生活習慣、保護者の状態と生徒の抑うつとの関連について検討した。</p> <p>その結果、以下の知見を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">① 主観的なストレスがある生徒は少ない生徒と比べて抑うつのリスクが高かった。② 体育の授業以外で毎日運動する習慣がある生徒は、ほとんどない生徒と比べ抑うつのリスクが低い。また、運動の頻度が高いほど抑うつのリスクが低いという傾向があった。③ 睡眠時間と抑うつとの関連はUまたはJ-shapeだった。④ 保護者の抑うつは生徒の抑うつと関連があった。 <p>以上より、ストレスの低減、運動の頻度の増加により、中学生のメンタルヘルス向上に寄与する可能性が示唆された。また、生徒のメンタルヘルスに保護者のメンタルヘルスも関連していた。以上の結果から、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			